

「家庭教育支援者地区別研修会開催」

「子どもの成長に、寄り添い、支える、親のかかわり」これは、地域家庭教育推進県北地区ブロック会議が家庭の教育力向上を目指して設定した事業推進テーマです。今年度は、3か年計画の2年目です。研修会では、地域の家庭教育支援者の実践力の向上や新たな支援者の育成を図り、地域の家庭教育力の向上を目指して、子どもを尊重した親としてのかかわり方を学びました。

『子どもを尊重した親のかかわりとは？』



講師 島谷 留美 氏
親子カウンセラー
言葉かけコーチ
ママの学校主宰

① まずは子どもの話を聞く

保護者がアドバイスを与えるのではなく「はあ。ふーん。へー。ほー。そう。」の相づちを使って、**子どもが自分で答えを見つけるのを待つ**ことが重要です。(例：○ふ〜ん。 ×なんでそんなこと言うの！)

② 叱る時は事実・私が受ける影響・わたしメッセージで！

叱る時には、事実を見ることが大切です。「いつも」「また」「ゲームばかりして」という言葉は、勝手に相手を判断している「レッテル用語」です。事実でないことをベースとしたレッテル用語は子どものやる気を失わせてしまいます。(例：○ソファーに寝転がっている。 ×ソファーでだらだらしている。)

③ 日常の当たり前をほめる

「すごいね」「えらいね」は評価する人とされる人の上下関係ができてしまいます。何気ない日常を切り取って**事実+自身の気持ち**でほめましょう！(例：○洗濯物がたたんでであると負担が減るよ〜。ありがとう。)

子育て中の保護者の70~80%が子育てに悩みや不安をもっています。

「サービス倫理委員会実施状況調査より」

令和7年度も残りわずかとなりました。今年度も各校の実態を踏まえながら、学校事故防止、不祥事根絶に取り組んでいただきました。今年度のサービス倫理委員会実施状況調査より今後の取組に向けて参考となる事例を紹介します。次年度に向けて各校でも実効あるサービス倫理委員会の運営をお願いします。

1 他人事を自分事として捉えるための工夫

不祥事が自身の人生設計（経済面や家族）に与える影響を具体的な金額でシミュレーションさせ、当事者意識をもたせる。(例：退職金の算出等)

2 ヒヤリ・ハット報告の習慣化

今日のヒヤリ・ハットを共有する。生徒指導や保護者対応、サービス規律遵守の観点から不祥事に繋がりがかねないヒヤリとした出来事を職員間で共有し、対応策を話題にする。

3 チェックシートの自校化

「している」「していない」を5段階に選択できるようにし、少しでも不安を感じる項目については洗い出しを行う。

4 振り返りの時間の確保

サービス倫理委員会終了後、各自で振り返りシートに記入する。振り返りのポイントは、①これまでの自分、②今日の委員会を通して、③これからの自分など。

教育広報



県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

☎024-521-2813

発行者 橋本 美弥子



巻頭言

「先輩の先生方から掛けていただいた 心に残る言葉」



業務次長兼学校教育課長 岩野 政二

今年度、県北域内の小学校・中学校・高等学校を数多く訪問しました。私は、主に各校の教頭先生と一緒に、若手教職員の授業参観や面談をさせていただきました。その中で、若手教職員が先輩の先生方から励ましてもらって、前向きになれたという話をたくさん聞くことができました。そこで、これまで私が先輩の先生方から掛けていただいた心に残る言葉を2つ紹介します。

【青年教師時代は、横と縦を意識して】

青年の「青」という字を分解すると、横線が6本もある。だから、青年教師時代は、先生同士、横へ横へとつながることを意識してほしい。初任研や小教研での出会いを大切にするといい。さらに「青」という字をよく見ると、横の線を支えている縦の線が3本ある。縦の線が意味するのは、学校教育に貫かれる国や県、市の方針であり、それらを受けた校長先生や教頭先生、主任の先生方からの指導や助言である。学校に勤める上での芯になる部分であり枠組みになる部分なので常に意識してほしい。青年教師時代は、これらの横と縦を意識して、自分の世界を広げ、教師としての自分をつくり上げる時だ。

この言葉は、私が初任者の頃、研修担当の先生から掛けていただいた言葉です。「青」という漢字の形をもとに、教師としての在り方を教えていただいたことが、今でも心に残っています。

【6割できたらいい先生】

最初から完璧な授業をできる教師はいない。考えているとおりに授業が進まなかったり指導が子どもたちに響かなかったりしても落ち込まないこと。それよりもできているところに目を向けて、続けていくことが大切。「6割できたらいい先生」とプラスに考えてみよう。今日できなかった残りの4割は明日から少しずつ取り組めばいい。それを繰り返していけば、数年後には必ず力が付いてくる。

この言葉は、私が駆け出しだった頃、授業がうまくいかず悩んでいた時に、ベテランの先生から掛けていただいた言葉です。肩の力を抜くことを助言していただいたことで、焦らずに少しずつやってみようという前向きな気持ちになりました。

今回紹介した言葉は、それぞれの先生方が教師という職に真摯に向き合ってきたことが滲み出ていた言葉だったから心に残っているのだと思います。また、自分ができていないことを自覚して困っていた時に、そのことを理解してタイムリーに掛けていただいた言葉だったからでもあると思います。

どの先生方にも、先輩方から掛けていただいた心に残る言葉があるのではないのでしょうか。これを読んで職員室や教室での何気ない会話の中で、「私はこんな言葉を掛けていただいたことがある」と話題にしてもらえたら幸いです。

令和7年度 事業取組についての紹介

未来へはばたけ！ イノベーション人材育成事業

今、求められている資質・能力を育む授業づくりを考えるために、算数・数学科、理科のイノベーション人材育成推進教員による授業を公開しました。個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びを実現することにより、生き生きと授業に臨む子どもたちの姿がありました。

算数・数学科では、全国学力・学習状況調査を踏まえ、4回の授業研究会を実施しました。また、9月には福島大学の森本明教授、1月には国立教育政策研究所の小山雅史調査官より講演をいただき、教材研究の在り方や授業・単元構想について深く学ぶ機会となりました。

理科では、カリキュラム・マネジメントを意識した授業づくりを目指し、3回の授業力アップ研修会を実施しました。9月の研修会では、福島大学の鳴川哲也教授による講演を起点に『学びの地図』をつくるグループワークを行いました。

令和7年度
イノベーション人材育成推進教員
【算数・数学科】
大玉村立大山小学校 小林道子 教諭
伊達市立梁川中学校 小手森猛夫教諭
【理科】
福島市立三河台小学校 野口卓也 教諭
二本松市立岩代中学校 本多一雅 教諭

<参加者の振り返り>

多様な考え方を引き出すことに日々苦戦している。今回の授業を参観し、じっくりと考えさせる時間設定を計画的に実施しようと思った。

「協働的な学び」と「個別最適な学び」の往還が実現されており、授業者の「誰一人取り残さない」という授業観が感じられた。

カリマネや単元など、大きな視野で子どもを見ることの大切さを再確認できた。教科のみで完結しない学びが本来あるべき教育の姿であることに気付いた。

小学校・中学校の教員が同じテーマで話し合えることに大変価値があると感じた。

超スマート社会を担う産業人材育成事業 「専門教育魅力発信応援事業」

今年度は、下記の小・中学校の児童生徒が、専門高校で実施された体験学習に参加し、高校生から専門高校の学習内容について学びました。「勉強が何の役に立つの?」「専門高校って何を学ぶの?」という疑問をもつ児童生徒にとって、専門高校で学ぶ高度な技術の見学や体験は鮮烈な答えとなり、高校生にとっても、年下の子どもたちに体験学習を通して教えることは、自らの学びを深める「アウトプット」の絶好の機会となりました。キャリア教育の推進に向けて、次年度(予定)も県北域内の小・中学生の参加をお待ちしております。

【令和7年度事業参加校】

- ・福島市立吾妻中学校(2年生)が福島商業高校・福島工業高校へ
- ・二本松市立二本松南小学校(6年生)、岳下小学校(6年生)、小浜中学校(1年生)が二本松実業高校へ



(写真) 高校生からの説明を真剣に聞く小学生の様子

要請訪問・支援訪問

教育事務所では、各学校の教育課題の解決に向け、特色ある学校経営や教育活動が展開できるよう、市町村教育委員会や各種研究団体からの要請に応じて、訪問支援を行ってきました。

今年度の訪問では、先生方と対話をしながら一緒に授業を考えていくことを重視してきました。先生方が授業に込めた思いや悩んだことなどを共有することで、より具体的な協議ができました。

また、昨年度より要請が2割ほど増加しました。要請の内容も多様で、各学校において研修体制を工夫していることがうかがえました。

以下に今年度要請のあった内容の一部を紹介します。研修観の転換を図るために、今後も要請訪問をご活用ください。

- 校内授業研究会における指導・助言を複数回実施。(例: 3回要請が2校)
- 昨年または要請訪問Iで授業を参観した先生方からのおかり要請。
- 午前に授業参観。午後は全体会で講話等を実施。その後の協議は先生方で共通題材を使って授業構想。

様々な要請にお答えします
普段の授業づくりを訪問支援(要請訪問II)

県北教育事務所
教育事務所では教育課題の解決に向け、要請に応じて訪問支援を行っています。

どのような内容の要請がありますか?
授業参観や研究協議等における指導・助言の他に、以下のような内容にも対応いたします。

<要請内容>
○ 授業参観(多教科)を通じた指導・助言
○ 研究協議会等における指導・助言、協議・演習等
○ 下見(イノベーション推進)の支援
○ 個別最適な学び(個別指導、柔軟授業)
○ 教育課題に関する相談等

新採用の先生や、教職経験の浅い先生の支援にも御活用ください。

要請するにはどうすればいいのですか?
校長先生・教頭先生に相談してください。市町村教育委員会と要請について検討し、申請してください。

<申込みの流れ>を参考に、お気概にお申し込みください。
詳しくは「令和8年度要請訪問実施要項」をご覧ください。(2月まで訪問可能)

<申込みの流れ>
【各学校】→【市町村教育委員会】→【県北教育事務所】
要請内容・日時等の希望 「様式2」講師派遣申請

ふくしま外国語教育推進リーダー 「中学校授業参観・授業公開・互見授業」

外国語の優れた実践を普及するとともに小中連携の一層の推進を目指し、大玉村と桑折町、本宮市で研修会を開催しました。○10月28日(火)大玉中学校授業参観 大山小学校授業公開 大山小学校授業公開では、若松菜里教諭に授業を提供していただき、目的や場面、状況等の設定の工夫や中間指導の在り方について協議を行いました。福島大学の高木修一准教授から、小学校から中学校へスムーズに学びを繋げる系統的な指導について指導助言をいただき、理解を深めました。

○11月7日(金) 醸芳中学校授業参観 醸芳小学校授業公開 醸芳小学校授業公開では、阿部淳子教諭に授業を提供していただき、相手を意識したコミュニケーションや児童一人一人に応じた個別最適な学びの実現について協議を行いました。また義務教育課の二上明子指導主事から小・中学校の外国語指導における共通点と相違点が示され、それらを整理しながら校種間の連携を再確認する機会となりました。

○11月13日(木) 本宮まゆみ小学校互見授業 渡部珠代教諭に授業を提供していただきました。児童が選択するめあての工夫や目的意識と相手意識の持続化、振り返りの在り方について協議を行いました。また、教材の作成方法や単元構想、ICTの活用の仕方を共有する等、実践に直結する具体的な研修会となりました。

道徳教育総合支援事業 「道徳教育地区別協議会」

今年度の推進校である伊達市立伊達小学校は、「重点内容項目の焦点化と別葉の活用、自己を見つめることを重視した道徳科の授業構想」を意識しながら組織的に道徳教育を推進してきました。11月28日(金)に公開された授業では

- 受容的な雰囲気の中、本音で話す子どもの姿
 - 最後まで集中して考える子どもの姿
 - 友達と話し合う中で、新しい価値観に気付く子どもの姿
 - これまでの自分と真摯に向き合う子どもの姿…など
- 子どもたちの生き生きと輝く姿がたくさん見られました。

道徳教育を組織的に推進してきたことの成果を、子どもの姿から感じることができました。

<伊達小学校教員の感想より>

先生方と道徳の授業について悩んだ分、他の教科では見ることができなかった子どもたちの素敵な姿を見ることができました。



令和8年度 県北教育事務所 学校教育指導の重点

※ 今年度中に県北教育事務所のホームページにアップしますので、ご活用ください。

～幸せを紡ぐ県北の教育～ 令和8年度 県北教育事務所 学校教育指導の重点

重点目標 「子どもが主役」になる教育の推進

確かな学力 関連資料
～資質・能力を確実に育成する授業づくり～
○ 「ふくしまの『授業スタンダード』」「『学びの変革』授業デザイン」「授業改善グランドデザイン」の活用
・ 目の前の子どもに合わせた単元(題材)づくり
・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
・ 授業のUD/ICTの効果的な活用
・ 振り返りの充実、ゴールからの授業づくり
○ 子どもの学びと教師の学びは相似形(学び続ける教師)
・ 組織的な学力向上策(学力向上グランドデザイン)の推進
・ 校内研修の充実、「互見授業」の推進
・ 日常的な教材研究と授業の振り返り

健やかな体 関連資料
○ 運動習慣形成と体力向上の推進
・ 息も心も弾む体育科・保健体育科の授業づくり
・ 運動に親しむ機会・環境・時間の確保
・ 自校の体力課題に応じた組織的な取組
○ 健康・安全な生活への指導の充実
・ 健康マネジメント能力の育成
・ 自ら適切に判断し主体的に行動できる
・ 防災・放射線教育

豊かな心 関連資料
○ 全教育活動を通じて行う道徳教育の推進
・ 学校全体で取り組む推進体制の確立(実効性のある別葉へ)
・ 「自己を見つめる」授業づくり
・ 家庭や地域と連携した道徳教育の推進
○ 豊かな体験活動の充実
・ 地域の人や異年齢集団等との交流活動
・ 特別活動を軸としたキャリア教育
○ 子ども理解に基づいた生徒指導の充実
・ 自己指導能力の育成
・ いじめ、不登校の未然防止・早期発見
・ 教育相談の充実(SSC、SSW等)との連携

つながる幼児教育 関連資料
○ 幼児期の発達の特徴を踏まえた指導計画の作成と改善
・ 子どもの実態に即した指導計画の修正と改善
・ 家庭・地域・小学校との連携
・ 実効性のある「架け橋のキャリア」
○ 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開
・ 教材の工夫と意図的な環境の構成
・ 試行錯誤や考える過程を重視した教師の関わり
○ 評価の工夫・活用
・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に基づいた子どもの見取り
・ 指導の改善に生かす評価
・ 組織的・計画的な評価と小学校への引継ぎ

未来を拓く高校教育 関連資料
○ 教育内容・方法の工夫・改善・充実
○ チーム学校における生徒指導体制の構築

みんなでつくる特別支援教育 関連資料
○ 全教職員による支援体制の充実
・ コーディネーターを中心とする支援体制
・ 校内研修の活性化
・ 交流及び共同学習の充実
○ 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援
・ 合意形成の過程を大切に「合理的配慮」
・ 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」
・ 自立と社会参加に向けた教育の充実
・ 自立活動の指導の充実

適切な学級・学習集団
・ 目標に向かって協力し粘り強く取り組む集団
・ 互いの考えをきき合い高め合う集団
・ 互いの個性や多様性を認め合い支え合う集団